



森のはこ舟
アートプロジェクト
福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

森人たちの声に、耳を傾ける。

森のはこ舟フォーラム2015

5.16 | 土 | 15:15開場 15:45開演
福島県立博物館・講堂 | 入場無料 |

今年度の森のはこ舟アートプロジェクトの開幕に際し、これまでの事業を振り返り、新たな展望を語るフォーラムを開催します。

2014年にスタートした森のはこ舟アートプロジェクト。昨年、私たちは森に入り、アーティストと共にさまざまなプログラムに取り組みました。そこで、森に暮らし、森の姿をよく知る、たくさんの“森人”と出会いました。そして彼らこそ、「はこ舟」がいつそう力強く進んでいくための水先案内人たる存在だと感じるようになったのです。

2015年は、みなさんと共に森人たちの声を聴き、「はこ舟」の進む先を見極めるための1年にしたいと考えています。その始まりの一歩となる本フォーラム。多くの方のご参加をお待ちしております。

森のはこ舟フォーラム2015

5.16 | 土 | 15:15開場・15:45開演

福島県立博物館・講堂

入場無料・定員200名(申込み不要)

【第1部】(15:45～)

事業説明

ディレクター 伊藤達矢 (東京芸術大学特任助教)

「森のはこ舟アートプロジェクト2014」活動報告

登壇者:

喜多方市エリアコーディネーター 金親丈史・佐川友美

西会津町ワーキンググループ代表 蒲生庄平

三島町エリアコーディネーター 三澤真也

聞き手: 小林めぐみ (福島県立博物館学芸員)

【第2部】(16:50～)

トークセッション「森で生きる人々」

実行委員会委員長

赤坂憲雄 (福島県立博物館館長)

×

喜多方市、西会津町、三島町

各エリア登壇者

モデレーター

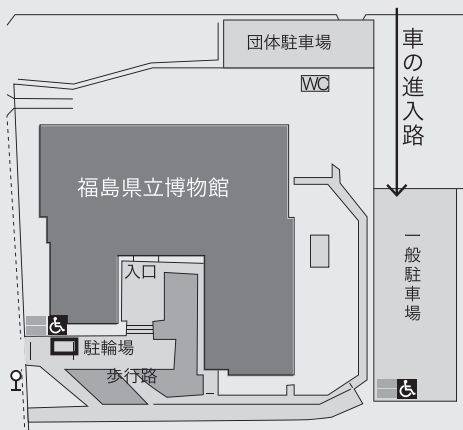
川延安直 (福島県立博物館学芸員)



2014西会津プログラム 片桐功教「草木をまとって山のかみさま」

森のはこ舟アートプロジェクトとは

四季折々に豊かな表情を見せる森は、多くのめぐみを与えてくれる命の泉です。森は、山、里、海、そして人の心の豊かさを生み育ててきました。人々は、森から糧を得、器を家造ってきました。森は、恐れ崇める場であり、安らぎの場でもありました。浜辺の松林、里山の広葉樹林、奥羽山脈のブナ林。はま、なか、あいつの森が県土の7割を占める福島は、森のくにです。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県は大きく傷つけられました。大量の放射性物質が拡散し、多くの人々はふるさとを離れ、今も将来への不安を抱えながら暮らしています。私たちは、福島再生のために、美しい自然と人々が愛しみ育ててきた豊かな森林文化をテーマとした新たなアートプロジェクトを展開し、未来へ希望を発信するとともに未来に向かう福島のイメージの創造を目指します。



会場
福島県立博物館 講堂
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25

会場へのアクセス
・会津若松ICから車で約15分
・会津若松駅からバスで約20分
鶴ヶ城三の丸口下車徒歩約1分

バスをご利用の場合・会津若松駅バスターミナルから
・まちなか周遊バス「ハイカラさん」にて約20分
三の丸口下車すぐ
・まちなか周遊バス「あかべえ」にて約30分
三の丸口下車すぐ

※お車で来館されるお客様は、博物館東側の専用駐車場(一般駐車場)をご利用下さい。

森のはこ舟 アートプロジェクト

福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

問い合わせ
森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会事務局
TEL 090-5357-3381 (遠藤)
ホームページ morinohakobune.jp
「森のはこ舟」で検索

主催 福島県 | 森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会
共催 東京都 | アーツカウンシル東京
(公益財団法人東京都歴史文化財団)
協賛 日本たばこ産業株式会社
公益財団法人 福武財団
公益財団法人 朝日新聞文化財団
公益財団法人 野村財団

協力 文化芸術による復興推進コンソーシアム

このプロジェクトは、森林環境税を活用しています。
森林をみんなで守り育てよう。